

## 大学在学中に予備試験合格を目指す方へ 予備試験合格のための予備スタ論・予備スタ短活用法

平成30年6月2日(土)  
辰巳専任講師・弁護士  
松永健一講師作成

### 第1 短答式試験に合格するために必要なこと

- 1 最低限の知識の補充(条文, 判例, 基本論点)
- 2 横断的な理解(例: 敷地利用権の種類は?)
- 3 制限時間内に書ききる。

### 第2 論文式試験に合格するために必要なこと

- 1 合格答案のイメージを上げる。
- 2 論文合格に必要な知識を補充する(使える形に加工する。)
- 3 制限時間内に書ききる(答練の利用)。
- 4 どの部分に点数があるのかを意識する。

### 第3 平成30年短答式試験に合格(見込み), 約1か半後の論文式試験合格を目指す場合

- 1 過去問の検討(最低でも直近5年分, 余力があれば, 平成23年までさかのぼる。)
- 2 論証パターンを暗記する(使える形にするのが望ましいが, 時間がない場合には, 既存の本をそのまま利用してもよい。通りいっぺんの論証をできるようにする。)
- 3 予備スタ論の利用—初見の問題を制限時間内に書ききる訓練をする。  
配点表を見て, どこが重要であるかを意識する。

### 第4 平成31年以降の合格を目指す場合

- 1 短答式試験に関して
  - ・過去問を解く(辰巳法律研究所のものがお勧め。解説が充実している。)  
できれば, 3週ぐらいはしたい。
  - ・論文式試験を意識しつつ, 短答式試験の勉強も行う。

立法趣旨の理解，この論点が出たらどのように書くか？

予備スタ短の「ワンポイントレッスン」の利用

- ・時間制限を意識した演習—予備スタ短の利用

## 2 論文式試験に関して

- ・過去問を解く。平成23年～平成30年まで。できれば答案化したい。
- ・論証パターンを自分なりに整理する。市販本を使ってよいので，そこからコンパクトな論証を意識する。
- ・予備スタ論の利用—最後まで書けるようにする。  
配点表を見て，どこが重要であるかを意識する。
- ・時間がある場合，(新)司法試験の問題も検討する(直近3年分から5年分でよい)。
- ∴同一論点が問われる可能性がある。
- ∴出題趣旨・採点実感が充実している。